

藤原宮跡・藤原京跡の発掘調査

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

飛鳥藤原宮跡発掘調査部では1989年度、藤原宮跡については西方官衙地区を中心に5件の調査を、また藤原京跡では右京一条一坊・右京七条一坊・左京九条四坊・本薬師寺旧境内などで18件の調査を実施した（15頁表参照）。以下、主要な調査の概要を報告する。

1. 藤原宮跡の調査（第60-10・13・15次他）

藤原宮跡内の調査では、年度当初、内裏東外郭地域の調査（第58次）を前年度から引き続いて実施したが、その成果についてはすでに報告した（年報1988）。宮跡内ではこの外、開発工事等に伴なう調査を、宮の西南地域で実施した。この地域は、周知のように史跡指定の範囲から除外されているため、近年各種の開発工事に伴う調査が増大している地域もある。

西方官衙地区（第60-13次）　調査地は鴨公小学校校庭の南に接し、周辺では小学校の建設に伴ない広範囲な調査（第5～9次など）が行われている。今回の調査では、4間×3間の南北棟を1棟検出した。この建物は、柱間2m前後的小規模なもので、宮期ないしは宮直前の遺構である。比較的遺構密度の低い西方官衙南辺地域としては貴重な成果といえる。

宮西南地区（第60-10・15次）　調査地は宮の西南辺部にあたり、調査の結果、掘立柱建物5・溝1・土坑3などを検出した。掘立柱建物は、いずれも梁行1～2間、桁行2～3間程度の小規模なもので、柱間寸法も2m前後である。北で僅かに東に振れる方位を持ち、10次調査で検出した藤原宮期の遺構と同時期と考えてよい。なお、下層には弥生時代中・後期の包含層（四分遺跡）がほぼ全面的に分布しているが、今回は一部の調査にとどめた。出土遺物には弥生時代前～後期の土器、藤原宮期の土師器・須恵器・瓦、中世の瓦器をはじめ、石包丁・鉄滓などがある。今回の調査では、小規模な建物が散在する宮西南部の状況が一層明確になった。

南面内濠地区（第60-20次）　調査地は、宮南面西門想定位置を含むが、調査の結果、内濠は確認できたが、南面西門は礎石・基壇痕跡とも確認できなかった。門の基壇は完全に削平されていたものと思われる。内濠は幅2.5m、深さ0.9mの規模で、上層には多量の瓦、下層には木屑がつまっており、木屑層中から木簡の削り屑（内容不明）数点が出土した。

2. 右京二条一・三坊の調査（第60-11・12次）

この地域は、外周帶をはさんで藤原宮の北に接するという重要な場所にあたるが、近年都市化の速度が特に速いこともある、調査件数が多い。

二条一坊地区（第60-11次）　調査地は、藤原京右京二条一坊西南坪の中央付近にあたる。調査の結果、掘立柱建物SB01と掘立柱塀SA02を検出した。これらは、いずれも藤原宮の時期の遺構である。SB01は桁行6間の南北棟で、梁行は北妻が2間、南妻が3間と推定され、柱掘方はいずれも一辺1mを超える大規模なものである。このSB01の南妻柱筋と東側柱筋は、それぞれ坪の南北・東西三等分線に近い位置にあり、坪内に計画的に配置された建物である。SA02は、

SB01の北にある東西塀で、2間分を確認した。

今回検出した南北棟 SB01は、藤原京の建物としてはきわめて大規模であるが、右京二条一坊西南坪における建物配置を復原すると、この建物の西方、坪の中央あるいはその北寄りに、さらに大規模な正殿級の建物が存在する可能性があり、調査の進展に期待がもたれる。

二条三坊地区（第60—12次） 調査地は藤原京右京二条三坊東南坪の東南部にあたる。従前の調査でこの東南坪は、一坪を占地する宅地であったと推定されている。調査の結果、掘立柱建物1、掘立柱塀1を検出した。SB6840は、調査区北西部にかかる総柱建物であり、東西棟と復原できる。梁行2間、桁行1間分を検出した。SA3575は、第39次調査区から続く掘立柱東西塀で、SB6840の東妻棟通柱に接続する。1間分を検出し、第39次調査での検出分とあわせて5間分を検出したことになる。

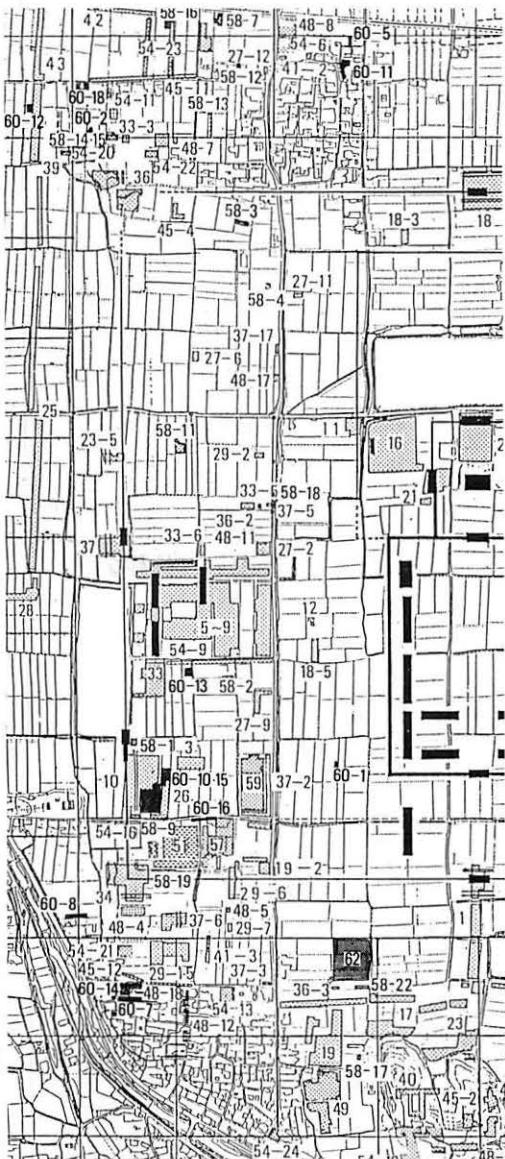
今回検出したSB6840・SA3575は、従前の調査成果とも総合すると、宅地内郭の南辺を画する中門とそれに取り付く塀である可能性が高い。すなわち、従前確認しているSB3580・3595を9間の建物と仮定すれば、SB6840は5間となってこれら3棟の中心線はほぼ一致する。これにより正殿（SB3595）・前殿（SB3580）・中門（SB6840）という建物配置が復原できよう。

3. 右京七条一・二坊の調査（第62・60—14次）

この地域は、外周帶をはさんで藤原宮の南に接する重要な場所だが、近年、公共事業を中心にお開発工事が集中し、今年度も第62次調査をはじめ数ヶ所で調査を行なった。

七条一坊地区（第62次） 調査地は、藤原京右京七条一坊西北坪の北東部にあたる。右京七条一坊では、これまでに第17・19・23・40・49次などの調査が実施されている。検出した遺構には、竪穴住居・掘立柱建物・掘立柱塀・溝・土坑・井戸などがあり、これらは古墳時代、藤原宮期、藤原宮期以後の3つの時期に大別できる。

このうち藤原宮期ないしその直前の時期の遺構には、掘立柱建物8、掘立柱塀10、素掘溝3、



藤原宮周辺調査位置図（数字は次数）

井戸 2, 土坑15などがある。これらは造営の方位や出土遺物などから A～D の 4 群に細別され、この内 D 群が藤原宮の時期の遺構である。A 群には、掘立柱建物 SB6475・SB6484、掘立柱塀 SA6473・SA6474・SA6486があり、他に東西溝 SD6510 や浅い東西溝状土坑 SK6489がある。これらは、北で西に約 4 度振れる方位をもつ。B 群には、掘立柱建物 SB6482・SB6483 や南北溝状土坑 SK6490 があり、この内建物 2 棟は柱筋を若干ずらして並行に配置される。土坑からは漆を入れた小型壺が出土した。C 群は北で東にわずかに振れる方位をもち、掘立柱建物 SB6470・掘立柱塀 SA6471・SA6472・SA6487 や南北溝 SD6512・

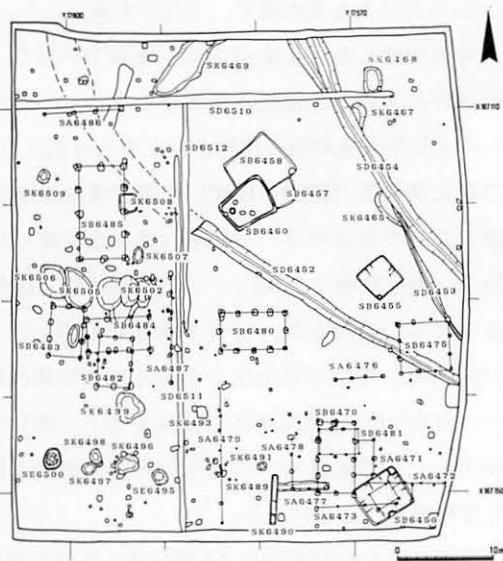
東西溝 SD6510 がある。D 群には、掘立柱建物 SB6480・SB6481・SB6485、掘立柱塀 SA6477・SA6478・SA6479、南北溝 SD6511、井戸 SE6500 があり、北で西へわずかに振れる方位をもつ。

D 群（藤原宮期）の遺構の配置は、南北溝 SD6511 によって坪の東三分の一を区切り、その東には東西棟 SB6480 と小規模な東西棟 SB6481 がある。SB6481 の南と西は鍵の手に連なる掘立柱塀で囲み、その西に南北塀を配置する。また溝 SD6511 の西側では、北寄りに南北棟 SB6485 を配し、南には井戸 SE6500 や土坑群などが営まれていた。井戸 SE6500 は、1 辻 55cm の横板組の井戸枠を残しており、枠内堆積土から土器や独楽、木簡の削り屑などが出土した。

一方、古墳時代の遺構には、竪穴住居 5、西北流する斜行溝 3、土坑 8 などがある。このうち竪穴住居は調査区東半分で検出した。最も保存状況の良い SB6450 は、長辻 5.3m、短辻 4.4m の方形で、深さ 30cm をとどめる。床面上で 4 本の柱穴と東北隅に貯蔵穴を確認した。床面には炭化した柱や屋根材などの建築材が認められた。斜行溝 SD6452・6453・6454 は、いずれも横断面 V 字形の素掘溝で、底中央が一段深くなる特徴をもつ。

出土遺物には土器・瓦・木製品・土製品・石製品がある。瓦は調査区西南部の整地土上や南北溝 SD6512・井戸 SE6500 から少量出土した。古墳時代の斜行溝や竪穴住居から出土した土器は布留式の新しい段階に属する良好な資料である。井戸からは「□年六十三」と記した木簡の削り屑が出土している。

今回の調査では、藤原宮南辺の六条大路南側溝及びその南の七条一坊西北坪の遺構の確認が期待された。西北坪については、西南坪のような大規模な建物群は検出されなかったものの、いくつかの小規模な建物を検出し、井戸や土坑など生活の跡を確認することができた。またあわせて古墳時代の竪穴住居、斜行溝を検出し、古墳時代の理解にとっても貴重な資料を得た。



第62次調査遺構配置図

しかし、大路南側溝と坪の北を限る塙は検出できず、今後の課題として残された。

七条二坊地区（第60—14次） 調査地は藤原京右京七条二坊西南坪にあたる。調査の結果、掘立柱建物・溝・土坑・竪穴住居など、弥生時代から中世にわたる遺構を検出した。

藤原宮期の遺構には、建物2・溝・土坑・井戸などがある。SB04は南北棟、SB02はSB04の南にある南北棟で、ともに妻側柱間を1間分確認した。南北溝SD4700は、最大幅1.7mで、16m分を確認した。井戸SE08の井戸枠はすべて抜き取られていた。弥生時代の遺構には、数棟重複する竪穴住居と土坑（SK03・05・07）がある。また、中世の遺構には小柱穴や井戸がある。

出土した遺物には土器・土製品・瓦類があり、このうち本薬師寺所用の軒平瓦が注目される。本調査で注目すべきは、坪を東西に二等分する位置に掘られた溝SD4700である。藤原京内の坪の分割方法が明らかな例は少なく、これが溝による分割方法を明らかにした最初の例である。

4. 左京九条四坊の調査（第60—17次）

農道整備事業に伴う第3次（最終年）の調査で、調査地は、藤原京左京九条四坊東北坪にあたり、坪内の宅地遺構や条坊関連遺構の検出を目的に、「南北調査区」「東西調査区」「東端調査区」を設定した。

南北調査区で検出した遺構には、掘立柱建物1、井戸1、東西溝4がある。SB01は南北2間、東西2間以上の掘立柱建物。東西溝4条のうちSD02・03が藤原宮期の溝で、共にやや斜行する。井戸SE01は径2.7mの円形の掘方を検出した。藤原宮期に属す。

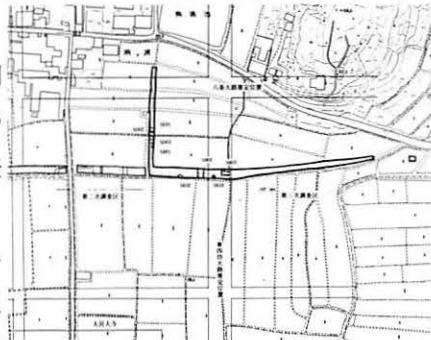
東西調査区で検出した遺構には、掘立柱建物2、井戸2がある。SB02は桁行4間以上の南北棟、SB03は桁行3間、梁行2間の東西棟である。井戸SE02は掘方内の西寄りに井戸枠を一段残していた。枠抜取り穴から、卷斗の10分の1の雛型が出土した。井戸SE03は円形掘方の中央に内法55cmの方形縦板の井戸枠を残す。

調査の結果、当初予想した八条大路・東四坊大路（推定中ツ道）は検出できなかった。特に東四坊大路想定線上には藤原宮期の井戸があり、小規模ながら建物も存在する。ただしこの小範囲の調査から、条坊道路の存在を否定するのも早計である。さらに今後の調査に待ちたい。

5. 右京十条四坊の調査（第60—3次）

変電所建設に伴う事前調査であり、調査地は藤原京右京十条四坊にあたる。調査の結果、下層（弥生時代）と上層（古墳時代・藤原京の時代）2層の遺構を発見した。

上層で検出した遺構のうち藤原京期の遺構には、掘立柱建物1、掘立柱塙4、井戸2がある。SB2410は柱間2間分を検出したが、全体の大きさは不明。柱間寸法は約1.75mである。東西塙SA2400は東西5間分を検出した。柱間寸法は2.2m前後である。東西塙SA2407は、6間分（柱間寸法2.3m）を検出した。南北塙SA2408はSA2407に取り付き、東西塙SA2409は2間分を検出した。井戸SE2403は、一辺0.7m前後の縦板組の井戸枠をとどめる。井戸SE2404は、木櫃を



左京九条四坊の調査区位置と遺構（1：5000）

転用した横板組の井戸枠をとどめる。溝 SD2411は古墳時代の自然河川である。発掘区の南端をかすめて流れ、その北岸を検出したにすぎない。堆積土から弥生時代後期から古墳時代前期の土器や木製琴の共鳴槽が出土した。

調査区南半部にトレンチを設けて下層の水田遺構を検出した。この水田は、大畔の築成土から出土した土器などから、弥生時代後期のものとみてよい。水田は大小2種類の畦で区画されており、8面分を確認し、水口は大畔、小畔で各1箇所検出した。

今回の調査では、上層で藤原京期に属する建物や井戸などを検出し、下層では弥生時代後期に属する水田を確認した。上層では、調査区を横断する十条条間路の検出が期待されたが、これをみつけることはできなかった。今後の周辺地域での調査が待たれる。

6. 藤原京条坊遺構の調査

今年度も数ヶ所で条坊の調査を行ない、初めて一条大路を確認するなどの成果があった。

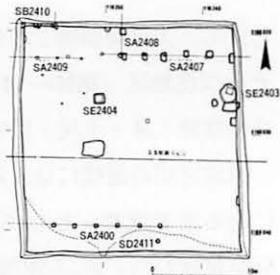
一条大路・東三坊坊間路（第60-6次）　調査は一条大路と東三坊坊間路の交差点の検出を目的とした。調査の結果、予想通り交差点と大路・坊間路の両側溝を検出した。

一条大路 SF6250は、幅1.5mの北側溝 SD6406・6408と幅1.3mの南側溝 SD6403・6405を伴い、両側溝心々距離8.5m、路面幅7.5mと復原できる。また東三坊坊間路 SF4300は、幅1mの西側溝 SD6404・6409と一条大路路面を横断する幅1mの東側溝 SD6400・6407を伴い、両側溝心々距離6.6m、幅員5.5mが復原できる。このように交差点の状況は、交差点西側では坊間路西側溝が大路の南北両側溝とそれぞれL字形ないし逆L字形に接続している。これに対し、交差点東側では北流する坊間路東側溝に大路の南北両側溝がT字形に接続していた。

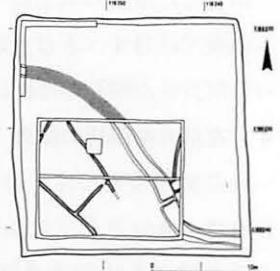
今回の調査で特筆すべき成果は、一条大路の両側溝心々距離（8.5m）ないしその路面幅（7.5m）が初めて判明したことである。藤原京の条坊を復原する上に貴重な資料となろう。

右京一条一坊・一条条間路（第60次）　調査地は、藤原京右京一条一坊西南坪と西北坪にあたり、一条条間路の想定位置を含む。調査の結果、一条条間路とその両側溝、小規模な建物2、井戸1、土坑など約30を検出した。一条条間路 SF6800は、幅1.5mの南側溝 SD6801と北側溝 SD6802を検出し、両側溝心々距離7mと路面幅5.5mが判明した。西南坪では、建物2と土坑多数を検出した。SB6815は1間×3間以上の掘立柱南北棟、SB6820は2間×1間以上の総柱建物である。西北坪はごく一部を調査したのみで、井戸 SE6810を検出したにとどまる。

出土遺物の大半は藤原宮期のもので、土師器・須恵器のほか硯や土馬・漆の付着した土器・鉄製品・銅滓・輪羽口・坩堝などがある。瓦は軒瓦が5点出土した。銅関係の遺物は、西南坪の西半に集中する傾向があり、付近に銅製品の製作に関わる工房が存在した可能性を示す。



第60-3次調査上層遺構配置図



第60-3次調査下層遺構配置図

西二坊大路（第60—8次） 調査地は、右京六条三坊東南坪東側の西二坊大路推定地にあたる。調査の結果、南北溝5、土坑1を検出した。溝SD6565・6570は幅1m前後の素掘溝で、共に藤原宮期のもの。溝SD6575・6579・6580・土坑SK6560は平安時代後半に属す。SD6575は幅0.6m、SD6579は幅1m、SD6580は幅1mの素掘溝である。またSK6560は方形の土坑である。

本調査の主たる目的は、西二坊大路の検出であった。しかし、大路東側溝の想定位置には2条の溝（SD6565・6570）があり、いずれとも決し難い。一方、西側溝の想定位置でも2条の溝（SD6579・6580）を検出したが、これはいずれも平安時代後半の溝であって、ここでも西側溝は判明しなかった。西二坊大路の位置と規模の確定は、なお周辺の調査の進展を待ちたい。

二条条間路（第60—5・60—19次調査） 第60—5次の調査地は、右京二条一坊西南・西北坪で、二条条間路の想定位置を含む。調査の結果、側溝心々距離7.2m、路面幅6.8mの二条条間路SF6410とその南北両側溝（SD6412・6411）を検出した。溝幅は北が1m、南が0.6mである。

一方、第60—19次の調査地は右京二条二坊西北・西南坪で、二条条間路の想定位置にあたる。調査の結果、幅1.2mの北側溝SD6333と幅1.2mの南側溝SD6331を検出し、二条条間路SF6330

の路面幅5.1mおよび側溝心々距離6.3mを確認した。

二条条間路については都合6地点で検出しており、それらの成果から遺構の振れを求めるとき大きい。あるいは西二坊大路をへだてて、二条条間路がくいちがっていた可能性もある。この点については、今後の調査の進展を待って検討したい。

（黒崎直）

調査地区	遺跡・調査次数	調査期間	面積	備考
6AJP-P	藤原京 第60次	89.5.5~89.7.19	1086m ²	右京一条一坊・一条条間路
6AJH-R・S	藤原京 第62次	89.7.3~89.10.11	2500m ²	右京七条一坊西北坪
6AJP-T	藤原京 第60—1次	89.4.3~89.4.5	24m ²	右京二条一坊西北坪
6AJJ-B	藤原京 第60—2次	89.4.10~89.4.12	29m ²	右京二条二坊西南坪
6AMR-R	藤原京 第60—3次	89.5.8~89.6.27	529m ²	右京十条四坊
6AJC-E	藤原京 第60—4次	89.5.10	38m ²	左京六条四坊
6AJP-T	藤原京 第60—5次	89.5.16~89.5.20	36m ²	右京二条一坊・二条条間路
6AJN-K	藤原京 第60—6次	89.5.23~89.6.16	220m ²	一条大路・東三坊坊間路
6AJM-E・F	藤原京 第60—7次	89.6.7~89.6.20	96m ²	右京七条二坊西北坪
6AJM-C	藤原京 第60—8次	89.7.1~89.8.11	177m ²	西二坊大路
6AWG-H	藤原京 第60—9次	89.8.7~89.8.11	80m ²	左京七条三坊東南坪
6AJL-F	藤原宮 第60—10次	89.8.28~89.9.30	600m ²	宮西方官衙
6AJP-U	藤原京 第60—11次	89.9.29~89.10.13	130m ²	右京二条一坊西南坪
6AJJ-A	藤原京 第60—12次	89.10.5~89.10.12	60m ²	右京二条三坊東南坪
6AJL-C	藤原宮 第60—13次	89.10.16~89.10.23	100m ²	宮西方官衙
6AJM-E	藤原京 第60—14次	89.12.11~90.1.10	140m ²	右京七条二坊東南坪
6AJL-F	藤原宮 第60—15次	90.1.16~90.1.31	190m ²	宮西方官衙
6AJM-A	藤原宮 第60—16次	90.1.12~90.1.18	70m ²	宮西方官衙
6AMA-P	藤原京 第60—17次	90.1.18~90.3.26	807m ²	左京九条四坊
6AJJ-A	藤原京 第60—18次	90.2.6	8m ²	右京二条二坊西南坪
6AJQ-E	藤原京 第60—19次	90.3.20~90.4.2	90m ²	右京二条二坊・二条条間路
6AJH-P・Q	藤原宮 第60—20次	90.3.22~90.4.2	230m ²	宮南面内濠
6BMY-C	本薬師寺1989—1次	89.8.21~89.8.23	17m ²	金堂西方
6AMC-U	山田道 第2次	90.1.6~90.4.7	940m ²	山田道推定地
SBAS-A	飛鳥寺 1989—1次	89.7.5	4m ²	西門西北方
SBAS-B	飛鳥寺 1989—2次	89.10.24~89.11.10	100m ²	西門西方
SBAS-A	飛鳥寺 1989—3次	89.11.13~89.11.16	15m ²	西門西北方
SBAS-B	飛鳥寺 1989—4次	90.2.5	2m ²	寺城東部
SBAS-E	飛鳥寺 1989—5次	90.2.26~90.2.27	12m ²	寺城東北部
5BOQ-I	奥山久米寺1989—1次	89.8.29~89.10.16	170m ²	金堂
5BYD-N	山田寺 第7次	89.10.12~90.2.22	1150m ²	南門・参道

1989年度 飛鳥藤原宮跡発掘調査部調査地一覧